

為サレル所ニ從ヒ行ク次第ニシテ強テ之ニ
反對スル趣旨ニ非ス唯一應見ヲ申述ヘタ
ルノミ各案ニ付テハ今日此ノ儘可決セラレ
然ルヘシト考フ字句其ノ他ニ付一々論及ス
ルヲ要セス伊東顧問官發議ノ通り讀會ヲ省
略シテ直ニ可決セラレムコトヲ希望ス
議長(清浦) 既ニ議論盡キタルモノト認ム又伊
東顧問官ノ發議ニ對シ賛成アリタルニ付讀
會ヲ省略シテ直ニ採決スヘシ本案賛成ノ諸
君ノ起立ヲ請フ

○
全會一致可決

議長(清浦) 次ニ外交及軍事ニ關スル報告アリ
五番(原) 今日御集會ノ機會ニ於テ外交及軍事
ニ關シ大體ノ情況ヲ報告セムト欲ス
我カ國カ西仏利亞ニ出兵シタル當時ハ歐洲
戰亂ノ最中ニシテ其ノ趣旨ハ當時聲明シタ
ル通り千エックスローヴァツクノ救援及獨逸俘虜ノ
掃蕩ニ在リシナリ其ノ後千エックス人民ハ漸次
其ノ本國ニ歸還スルコトト為リ當初出兵ノ

目的ヲ達成スルコトヲ得タリ茲ニ於テ必要
ナラサル地點ヨリ撤兵スルコト當然ナリト
考ヘ現ニチタ方面ニ於テ我カ軍隊ヲ撤退シ
タリ乍去我國ハ西以利亞ト接壤シ彼ノ過激
思想傳播ノ虞少カラス加フルニ不逞鮮人ノ
其ノ間ニ徘徊スルモノアルカ故ニチタク救
援ノ目的ハ成就シタリトテ直ニ悉ク撤兵ス
ルコトヲ得ス仍テチタ方面ノ撤兵ト同時ニ
浦潮方面ニ駐兵シ尚ハバロフスクハ尼港ニ
對シ要衝ノ地ニ當ルカ故ニ同地ニ多少ノ軍

隊ヲ駐屯セシメタリ

尼港事件ハ誠ニ悲慘ナル出来事ニシテ如何
ニモ遺憾ニ堪ヘサル次第ナルカ何分ニモ目
下ノ所交渉ノ相手方タルヘキ政府ナキカ故
ニ如何トモスルコト能ハス差當リ我國ノ適
當ト認ムル處置ヲ取ルノ外ナク即チチカレ
ニ州ノ適當ナル地點ヲ占領シ其ノ地ニ相當
ノ兵力ヲ駐屯セシメテ十分ナル對敵手段ヲ
講シ以テ他日時機ノ到来ニ備フルコト肝要
ナリト認メ既ニ夫々其ノ處置ヲ實行シ大體

一段落付キタルニ付此ノ際右等ノ情況ヲ本院各位ニ御報告申上クル次第ナリ尚詳細ハ當局大臣ヨリ陳述スル所アルヘシ
九番(田中) (先ツ芳賀陸軍砲兵少佐ヲシテ東部西比利亞ノ地圖ニ就キ説明ヲ為サシメ次ニ席上各顧問官ニ配付シタル「尼港事件ノ顛末」ニ港三月事變之顛末ヲ布衍シ之ニ最近極東三州ニ於ケル政情並ニ我カ軍事行動ヲ附加シテ説明シタリ)

七番(内田) 尼港事件ニ關スル外交上ノ交渉ハ

七月三日官報號外ヲ以テ公表シタル帝國政府ノ聲明ヲ基トシテ之ヲ開始シタリ此ノ聲明ハ本件ニ付帝國政府ノ採ルヘキ態度ヲ明ニシタルモノニシテ當時英米佛伊ノ四大國政府ニ對シ我カ駐在使臣ヲ以テ之ヲ通告シタリ此ノ通告ニ對シテ更ニ意見ノ申越アリタルハ米國ニシテ之ニ關聯シテ英國ヨリ一應ノ忠告的意見ヲ申越シタリ他ノ二國ニ於テハ單ニ通告接受ノ挨拶アリタルニ止マル
七月三日ノ聲明通告當時米國ニテハ國務卿

親港方面ニ旅行中ナリシヲ以テ帝國大使ハ
國務卿代理者ニ對シテ右聲明通告ノ手續ヲ
為シタルニ國務卿代理者ノ意見トシテ今回
大戦終結以來苟クモ他國ノ領土ヲ侵犯スル
コトハ主義トシテ米國政府ノ承認セサル所
ニシテ今日日本カ「サカレン」州必要ノ地點ノ
占領カ遂ニ永久ノ占領ト為ルコトナキヤハ
米國ノ窺ニ掛念スル所ナリトノ旨申述ヘタ
ルニ付帝國大使ハ之ニ對シテ相當ノ説明ヲ
與ヘ置キタリ然ルニ七月十六日ニ至リ國務

卿ヨリ帝國大使ニ對シ半公信ヲ以テ申越ア
リ其ノ文書左ノ如シ(朗讀)
右ノ文書ニ付帝國政府ニ於テハ熟慮ヲ加ヘ
タル結果本月上旬左ノ文書ヲ以テ回答スル
様帝國大使ニ訓電ヲ發シタリ(朗讀)
右ハ本月十三日帝國大使ヨリ國務卿ニ提出
シタル趣ヲ以テ其ノ次第左ノ通り大使ヨリ
報告アリタリ(朗讀)

之ニ對シテ更ニ米國政府ヨリ何等カノ申出
アルカ否カハ姑ク今後ノ成行ニ徴スルノ外

ナシ

米國政府ハ其ノ意向ヲ英國政府ニ通シタル
結果先般英國外務次官ハ我カ珍田大使ニ面
會ヲ求メ英國政府ニ於テハ別ニ猜疑ノ念ヲ
有スルコトナキモ米國政府ニ於テハ若干掛
念ヲ抱キ居ル趣ニ付可然説明アラムコトヲ
希望スル旨申出アリタリ之ニ對シ珍田大使
ハ本問題ハ重要案件ニシテ將來ノ發展ニ待
ツノ外ナク豫メ條件ヲ具シテ協定スヘキ性
質ノモノニ非スト回答ニ置キタリ

乍序支那ノ狀況ニ付一言セムニ南北ノ政争
ハ各位御承知ノ通りナルカ現ニ我カ公使館
ニ於テ安徽派ノ元兇九人ヲ保護シツツアル
コト一部攻撃ノ種因ト為リ居ルモ是ハ人道
上將夕國際慣例上當然ノ措置ニシテ我ニ於
テハ之ヲ續行スルノ外ナキナリ此ノ問題ニ
付テハ始メ北京ノ使臣會議ニ於テ今回争亂
ノ結果政治犯人ノ各國公使館ニ遁入スルモ
ノアルモ一切之ヲ保護セサルコトトスヘシ
トノ提議アリ此ノ提議ノ發案者ハ表面英國

公使ナリシモ内實米國公使ナリシカ如シ右
提議發案ノ際我カ小幡公使ハ斯ノ如キ事項
ヲ公使會議ノ決定ト為スコトハ極メテ重大
ナル關係アリ自分ハ之ニ對シテ可否ノ意見
ヲ申述フルコトヲ得スト強ク主張シタルニ
英米公使ハ別ニ駁論ヲ試ミルコトナク此ノ
提議ハ自然其ノ儘ト為リタリ其ノ後英佛米
ノ公使ハ自國人ニ對シ政治犯人ヲ保護セサ
ル旨ヲ布達シタリ我カ公使館ニ於テハ現ニ
九人ノ者ヲ保護シツツアルニ付一部ニハ之

附
密
陽

ヲ利用シテ日本ハ豫メ安徽派ト結托セリナ
ト言ヒ觸テス者アリ斯ノ如ク我カ態度ヲ故
意ニ曲解シテ為ニセムトスル者アルハ致方
ナシ我ニ於テハ右政治犯人保護ノ事實ヲ明
ニ支那政府及北京公使團ニ通知シ何等隱蔽
スル所ナク今日ニ於テハ英米公使トモ我カ
態度ヲ是認スルニ至レリ
議長(清浦) 別ニ御質問モナキニ付今日ハ之ニ
テ散會ス

(午後一時閉會)

副議長子爵清浦奎吾
書記官長二上兵治
書記官

入江貫一
村上恭一

勅令第 號

外務省官制中左ノ通改正ス

第三條中專任叅事官ハ二人ヲ專任叅事官ハ三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

内務省官制中左ノ通改正ス

第一條中賑恤救濟及ヲ及賑恤救濟其ノ他社會

事業並ニ改ム

第三條中三人ヲ四人ニ八人ヲ九人ニ改ム

第四條中五局ヲ六局ニ改メ地方局ノ次ニ社會局ヲ加フ

第五條第六號及第七號ヲ削リ第八號ヲ第五號第九號ヲ第六號トス

第五條ノ二 社會局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 賑恤及救濟ニ關スル事項

二 軍事救護ニ關スル事項

三 失業ノ救濟及防止ニ關スル事項

四 兒童保護ニ關スル事項

五 其ノ他社會事業ニ關スル事項

第九條ノ二 内務省ニ專任内務事務官二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ社會局ノ事務ヲ掌ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

大藏省官制中左ノ通改ニス

第二條中「人ヲ二人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

陸軍省官制中左ノ通改正ス

第一條ノ二ヲ削ル

第九條第九號中「陸軍中央幼年學校及陸軍地方

幼年學校」ヲ及「陸軍幼年學校」ニ改ム

第十二條中「陸軍砲兵工科學校」ヲ「陸軍工科學校

ニ改ム

第十三條中「對島警備隊司令部」ヲ削リ「陸地測量

部」下ニ「陸軍工兵學校」ヲ加フ

第十三條ノ二ニ左ノ一號ヲ加フ
五 航空局ニ關スル事項

附表中「參政官」ノ項及「副參政官」ノ項ヲ削リ同表

「參事官」ノ項中「一」ヲ「二」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

海軍省官制中左ノ通改正ス

第二條 削除

別表中参政官ノ項及副参政官ノ項ヲ削リ同表
参事官ノ項中「一」ヲ「二」「三」同表中百九十四人ヲ百
九十三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

司法省官制中左ノ通改正ス

第三條中七人ヲ八人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

文部省官制中左ノ通改正ス

第三條中二人ヲ三人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

農商務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「工場法施行」ノ下ニ「勞働保險其ノ他勞

働者保護」ヲ加フ

第三條中「一人」ヲ「二人」ニ「十人」ヲ「十三人」ニ改ム

第六條ノ二中「工場法施行」ノ下ニ「勞働保險其ノ

他勞働者保護」ヲ加フ

第十二條ノ二中「工務局」ノ下ニ「工務局事務官

專任二人」ヲ加ヘ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ

加フ

工務局事務官ハ奏任トス勞働保險其ノ他勞

働者保護ニ關スル事務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

逋信省官制中左ノ通改正ス

第二條中「一人」ヲ「二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ニ到リ專ラ平和的手段ニ依テ任務ノ遂行ニ努メタリ
八月中旬尼港方面ノ過激派ハ活動ヲ始メ反過激派トノ紛争ヲ惹起スルニ至レ
ルヲ以テ尼港市民ハ我軍ニ依テ治安ノ維持ヲ切望シ内外居留民モ速ニ我海軍
陸戰隊ノ揚陸ヲ請願シ加之獨塊俘虜ヲ混入セル尼港過激派軍ハ哈府過激派軍
ト策應シテ兵器彈藥及軍需品ヲ哈府方面ニ輸送シ烏蘇里沿線ニ於テ我陸軍ト
對抗セル過激派軍ヲ援助シツツアルコト判明シ又黑龍江用砲艦ヲ以テ反抗的
行爲ニ出テントスルノ形勢アリタルヲ以テ軍事行動上竝内外官民保護ノ爲陸
戰隊上陸ノ必要ヲ認メ第三艦隊司令長官有馬中將ハ第三水雷戰隊司令官ニ命
シ九月九日陸戰隊ヲ尼港ニ揚陸セシメ該隊ハ何等抵抗ヲ受クルコトナク「チ
ヌイラフ」砲臺、過激派軍本部及兵營ヲ占領シテ武裝解除ヲ行ヒ獨塊俘虜ハ
之ヲ我軍ニ收容シタリ

陸戰隊上陸後一般露人及在留外人等何レモ衷心我軍ニ信賴シ秩序漸次恢復シ
テ市内極メテ平靜ニ歸セリ第三水雷戰隊ハ進テ黑龍江系水路及沿岸ノ保安ニ
任シ以テ陸軍トノ協同動作ニ從事セリ

七年八月第十二師團長隸下部隊ノ烏蘇里鐵道沿線ノ敵ヲ肅捲シ九月四日哈府
ヲ占領スルヤ敵ハ急遽黑龍州方面ニ撤退スルト共ニ一部ヲ以テ黑龍江下流方
面ニ遁走セシヲ以テ益々尼港ニ占據シテ黑龍江ノ死命ヲ制スルノ必要ヲ生シ
タルト同方面ニ行動中ノ海軍部隊ハ結氷前撤退セラルヘキヲ以テ浦潮派遣軍
司令官ハ其ノ任務ニ基キ哈府ヨリ一部隊ヲ尼港ニ派遣スルニ決シ九月十三日
第十二師團長ニ對シ大隊長ノ指揮スル步兵二中隊ヲ以テ同地ノ守備ニ任シ少
クモ來春解氷期ニ至ル迄之ヲ繼續スヘキヲ命セリ
步兵第二十四聯隊第二大隊(第六、第七中隊及大行李缺)ハ九月十九日哈府出
發黑龍江ヲ下航シ途中敵ニ遭遇スルコトナク二十四日早曉無事尼港著陸戰隊
ト交代シテ守備ニ任シ又同地ト外部トノ通信ハ海軍之ヲ擔任スルニ決ス時恰
モ薩哈噠州自治廳長ヨリ無線電信所設置ノ請願アリタルヲ以テ海軍ハ之ヲ受
理シ在來ノ無線電信所ヲ修理シ臨時海軍無線電信隊ヲ配備シテ通信ニ任セ

リ

我艦隊ハ十月中旬結氷直前尼港方面ヲ撤退ス又臨時海軍派遣隊司令官中村少將ハ押收露國河用砲艦ヲ率キ哈府ニ冬營セリ

第二一 尼港守備隊到着ヨリ大正八年結氷期迄ノ情況

守備隊ハ尼港到着後能ク治安ヲ維持シ住民ノ信賴ヲ受ケ市内一般ニ靜穩ニシテ何等憂フヘキ状態ヲ認メス七年十月十七日「コルチャック」ノ「オムスク」政權ヲ掌握スルヤ西方「ウラル」戦線ニ於テ善戦大ニ過激派軍ヲ窘窮セシメ東方ニ於テハ其ノ威令漸次極東三州ニ及ヘリ之カ爲薩哈噠州ニ於テモ從來尼港方面統治ノ任ニ當リシ州自治會長ヲ排シ新ニ「オムスク」政府ノ任命セシ州知事ヲ以テ之ニ代ラシメ在來ノ尼港民兵亦新ニ極東司令官タル「ホルワット」次テ「ロザノフ」ノ直屬トナリ其ノ編成ヲ改メテ尼港支隊ト稱シ我守備隊ト親善ノ關係ヲ保持シ相協力シテ尼港ノ治安維持ニ任シ以テ八年春季ニ至ル

四

八年五月沿、黑兩州ニ在ル第十二師團カ新ニ到着セル第十四師團ト交代スルヤ歩兵第二聯隊第三大隊(本部及第十一、第十二中隊、機關銃二、長歩兵少佐石川正雅)新ニ尼港守備隊トナリ黒龍江ヲ下航シ五月二十七日尼港著六月一日引繼ヲ了シ舊守備隊ハ六月十日同地乗船内地ニ歸還ス

新守備隊交代後モ尼港方面ノ情況ハ依然平穩ニ經過シ時ニ「マリンスク」附近ニ「バルチザン」ノ蠢動スルモノナキニアラサリシモ其ノ勢力微弱ニシテ何等憂フヘキ兆候ヲ認ムルニ至ラス又當時尼港ヲ起點トシ黒龍江水系ニヨリテ後貝加爾及黒龍州守備部隊ニ對スル糧秣補給ヲ實施セシモ何等故障ヲ見スシテ第二年ノ結氷期(當年ニ於テハ十一月月上旬黒龍江全部結氷ス)ニ入レリ此ノ間支那國淺吃水砲艦隊(砲艦二、運送船一)ハ長江ヨリ尼港ニ廻航シ哈市ハルビンニ向ヒ黒龍江ノ遡江ヲ試ミタルモ十月下旬哈府下流ニ於テ露軍ノ拒ム所トナリ尼港ニ歸航シ同地ニ冬營セリ
我海軍ハ解氷期間再ヒ第三艦隊主力及第三水雷戰隊ヲ尼港方面ニ派遣シテ警

五

備ニ任シ又臨時海軍派遣隊ハ哈府ヲ根據トシ黑龍江系上流水路ニ活動シテ陸軍トノ協同作戰ニ從事セリ

第三 大正八年結氷期ヨリ尼港救援隊派遣ニ至ル

迄ノ情況

大正七年以來「コルチャック」政府ハ列國ノ支持ヲ受ケ基礎漸次鞏固ヲ加ヘ其ノ勢威全西伯利ヲ壓シ將ニ列國ノ承認ヲ得ントスルノ狀勢ニアリシカ八年晩秋ニ至リ「ウラル」戰線ニ於ケル戰況反過激派軍ノ不利ニ歸スルヤ延テ「コルチャック」政府ノ動搖ヲ來シ十一月十五日遂ニ「オムスク」撤退ノ餘儀ナキニ至リ爾來西伯利ノ政情ハ漸次惡化シ極東露領各地ニ於テモ亦過激派ノ擡頭ヲ來セリ

九年一月上旬「コルチャック」政府崩壞シ情況益々險惡ヲ加フルヤ當局ハ同月中旬第十三師團主力ノ派兵ヲ行ヒ該部隊ハ二月中旬ヲ以テ浦潮ニ上陸ヲ終レ

ルモ露國革命派ノ妨害ニ依リ北送ヲ實施スルヲ得ス四月四日武裝解除事件ノ後始メテ輸送スルヲ得タル實情ナリ

一月下旬ヨリ二月上旬ニ至リ沿、黑兩州各地ニ於テ政變相踵キ尼港方面亦其ノ餘波ヲ受ケ情況ハ俄然一轉シ過激派ノ勢力ハ尼港附近一帶ニ及ヒ同市内ノ商業停頓シ流言蜚語盛ニシテ人心動搖ス我守備隊ハ尼港ニ於テ獲タル野砲二門ヲ以テ臨時砲兵小隊ヲ編成シ日露自衛團及露軍ト協力シテ一意住民ノ保護ニ任シタリ

一月二十四日及同二十六日尼港駐在三宅海軍少佐及石田副領事ヨリ海軍々令部長及外務大臣ニ對シ陸戰隊派遣ノ意見具申アリタルヲ以テ當局ハ救援隊派遣ノ計畫ヲ進メタリ

過激派軍ハ益々尼港ニ迫リ一月二十八日遂ニ「チヌイラフ」砲臺ヲ占領シ二月五日午前八時同砲臺ノ敵ハ我無線電信所附近ニ對シ砲撃ヲ開始シ砲彈ノ構内ニ落下スルモノ多ク同地附近ニ在リシ我守備隊ノ一部（歩兵六十名、機關銃

一)モ亦五日早朝ヨリ過激派軍ノ攻撃ヲ受ケ敵ハ十二珊加農二門及五十七密速射砲二門ヲ以テ正確ナル射撃ヲ實施シタル爲兵舎破壊セラレ同守備隊ハ已ムナグ同地ヲ撤シ六日午後六時海軍無線電信隊(海軍少佐石川光儀外隊員四十二名)ニ合シ協力シテ電信所ノ掩護ニ努メタルモ敵ハ更ニ其ノ砲兵陣地ヲ進メ砲撃ヲ繼續シタル爲遂ニ電信室ハ破壊セラレ六日午後十一時以後通信不能トナリシヲ以テ同所ヲ撤退シ尼港守備隊主力ニ合シタルカ茲ニ尼港ハ全ク敵ノ重圍ニ陥レリ

當局ハ以上ノ情報ニ接シ且二月八日浦潮派遣軍ヨリ尼港方面ニ對シ増援隊ヲ送ルコトハ現下派遣軍兵力ノ關係上之ヲ許サス且哈府方面ヨリノ陸行ハ殆ト不可能ニ屬スルヲ以テ中央部ニ於テ他ヨリノ兵力ヲ差遣セララルヲ望ム旨電報アリ是ニ於テ何レカノ地點ヨリ上陸シ萬難ヲ排シテ救援ノ目的ヲ達セントシ二月十三日諸般ノ手續ヲ了シ第七師團ヨリ歩兵一大隊ト一中隊及砲兵一中隊ヲ基幹トスル混成部隊ヲ派遣スルコトトセリ蓋シ當時我浦潮派遣軍ハ日々

悪化シツツアル極東ノ險惡ナル情況ニ於テ所在其ノ兵力ノ不足ヲ感シ殊ニ哈府附近ニ於テハ形勢一層險惡ニシテ辛ウシテ該地方ノ秩序ヲ維持シ得ルニ過キス又第十四師團主力ノ守備ニ任セル黑龍州方面ニ在リテモ同様ノ狀態ナルヲ以テ尼港方面増援ノ爲到底須要ナル補給ヲ確保シツツ過激派勢力ノ蔓延セル哈府尼港間二百二十里ノ氷上ヲ突破スルニ足ルヘキ有力ナル救援隊ノ派遣ヲ許サス又少數兵力ノ派遣ノ如キハ途中危険ニシテ到底目的ヲ達スル能ハサレハナリ

我海軍ハ尼港ノ情況悪化セルト樺太^{アレキサンドロフ}亞港亦形勢險惡ナラントスルニ對シ同方面ノ在留邦人ヲ保護シ且尼港救援隊上陸ニ關シ艱難海峽氷原視察ノ目的ヲ以テ二月上旬軍艦三笠及見島(碎氷裝置ヲ有ス)ヲ亞港方面ニ行動セシメ兩艦ハ流氷ノ危険ヲ冒シ北上スルニ從ヒ堅氷ヲ破リ辛ウシテ二月十五日亞港南方約二十哩ノ「アグネオ」沖ニ達シタルモ遂ニ堅氷ニ閉サレテ北上スルヲ得ス取敢ヘス三笠ヨリ萬難ヲ排シ數名ヲ派シテ亞港官憲ト平和的折衝ニ依テ居留民

ノ安全ヲ圖リ又見島ヲシテ「デカストリー」港方面ヲ偵察セシメタル處韃靼海峽中央ニ於テ一帶堅氷ノ閉ス所トナリ極力碎氷ニ努メタルモ前進スルヲ得ス更ニ三笠ヨリノ飛行機偵察ニ依リ該方面ハ一面ノ堅氷ニシテ艦船ノ近接不能ナルヲ知り得タリ

亞港附近亦厚サ約二尺ノ氷原ヲ以テ蔽ハレ且該氷原ハ一時間約五哩ノ流速ヲ以テ移動シツツアリテ氷面所々ニ不時ノ大罅裂ヲ生シ是レ亦近接スルヲ得ス亞港以南ハ沿岸一帶ニ急峻ニシテ道路ナク行軍ハ樺太中央道路ニ依ルノ外ナキヲ以テ救援軍ノ樺太ニ於ケル上陸地點ハ邦領樺太ノ久春内ヲ以テ最北トシ同地ヨリ尼港迄氷雪約二百里ニシテ其ノ間利用シ得ヘキ村落ナク宿營給養等ノ關係上諸兵連合ノ部隊ヲ進ムルコト殆ト不可能ナリ依テ尼港救援隊派遣ノ計畫ハ遂ニ延期ノ已ムヲ得サルニ至リ小樽ニ於テ乘船ヲ開始シタル尼港派遣隊ヲ一時旭川ニ於テ待命セシムルニ至レリ

之ヨリ先二月二十一日尼港方面過激派軍指揮官ハ哈府無線電信所ニ宛テ尼港

日本守備隊ハ全ク外部トノ通信連絡杜絶セルヲ以テ戰鬪中止ニ關シ露國無線電信ヲ通シテ同守備隊ニ對シ適當ノ指示又ハ訓令ヲ與ヘラレンコトヲ提議スル旨電報セリ

右電報ノ通報ヲ受クルヤ陸軍當局ハ浦潮派遣軍ニ對シ「尼港ニ於ケル兩軍ノ衝突ハ過激派軍力濫リニ我守備隊ヲ攻撃シタルニ基キ我軍ハ單ニ正當防衛上之ニ對抗シタルニ過キス將來日本軍及居留民ニ損害ヲ生セハ其ノ責過激派軍ニアリ過激派軍ハ先ツ其ノ攻撃ヲ中止シ其ノ無線電信ヲ我守備隊ノ使用ニ供シ以テ守備隊ト哈府山田旅團長ト交渉シ得セシムルヲ要ス」トノ要旨ヲ以テ尼港過激派軍指揮官ニ回答スヘキ旨ヲ指示ス

第十四師團長ハ二月二十三日尼港守備隊長ニ對シ過激派軍力我居留民ヲ害シ若ハ我ニ對シ攻撃態度ヲ探ラサル限り從來ノ關係ニ顧慮スルコトナク平和ノ解決ニ努ムヘキ旨過激派軍無線電信ニ依リ命令セリ

二月二十五日尼港石川守備隊長ヨリ同月二十三日附ヲ以テ過激派軍無線電信

二三

ニ依リ「二十三日附第十四師團長命令受領依テ海軍無線電信隊ト協議シ對敵
行動ヲ中止ス將校及下士卒無事健全ナリ」トノ電報アリ
次テ三月三日ニ至リ尼港石川守備隊長及尼港方面過激派軍指揮官連名ヲ以テ
在哈府山田旅團長宛「二月二十八日午後五時白水將軍ノ命令通り講和ヲ締結
シ彼我國國際法ヲ完全ニ遵守シ概シテ領土内ニ於テ將來日本軍及露國聯邦共和
國赤衛軍竝「バルチザン」間ニ衝突ナカラシムコトヲ希望ス」トノ電報アリ
三月十日ニ至リ二月六日以來音信不通ナリシ我尼港無線電信隊長ヨリ海軍々
令部長宛左ノ電報アリ

「二月二十四日赤衛軍ヨリ今後ノ犠牲ヲ避クル爲協商ヲ遂ケタキ旨申込テ
リ同日ヨリ休戦二十八日午後協商成立ス本隊ハ陸軍ト協議ノ上我領事館護
衛ヲ擔任シ赤衛軍ノ入市ニ先チ二十七日ヨリ隊員全部領事館ニ移リ引續キ
警戒シ居レリ二十九日赤衛軍入市勞農政府ノ樹立ヲ見ル各戸赤旗ヲ樹テ市
民ハ赤旗ヲ翻シテ之ヲ歡迎ス

赤衛軍中ニハ多數ノ支那人及鮮人ヲ見タリ入市後舊軍人、官吏ノ捕縛セラ
ルルモノ多ク要塞司令官(註、當時尼港露軍指揮官)參謀長其ノ他二三ノ將校ハ自殺セリ二
月七日尼港ニ引上クルニ當リ建物、軍需品、糧食、官金、機密書類、暗號
書等全部ヲ燒棄ス此ノ際ノ戰鬥ニ於テ我損害戰死陸軍卒二、重傷機關大尉
榑原(下腹部貫通銃創十三日午後十二時陸軍病院ニテ死亡ス)輕傷海陸軍卒
各一、本電ハ赤衛軍電信所(舊商業電信所)ヨリ發電ス三月十四日正午迄我
電信兵ヲ派遣シ當直セシム爾後無線ヲ使用セス

陸軍當局ハ此ノ通報ニ接シ直接守備隊長ニ對シ過激派軍ノ態度豹變測ルヘカ
ラサルヲ以テ油斷シ得サルコトヲ注意シ尙詳細報告事項ヲ指示シ又將來ノ通
信連絡ノ方法ヲモ附加シ其ノ報告ヲ直接參謀總長ニ致スヘキヲ以テシタルモ
遂ニ回答ヲ得ス

海軍當局及浦潮派遣軍等ニ於テモ無線電信其ノ他ノ方法ヲ以テ通信連絡ヲ試
ミタルモ悉ク成功セス

二三

三月十四日哈府革命軍司令官ヨリ在哈府山田旅團長ニ對シ尼港市内ニ於テ十一日夜ヨリ再ヒ日露兩軍間ニ戰鬪行動ヲ開始セリ依テ互ニ戰鬪中止ニ盡力シタキ旨申出タルヲ以テ翌十五日在哈府兩國代表者評議ノ上連名ヲ以テ尼港兩軍指揮官ニ戰鬪中止勸告ノ電報ヲ發送シ且兩軍代表者ノ派遣ヲ協定セシモ後ニ至リ右派遣ハ其ノ生命及通信ニ關シ過激派軍ヨリ保障セラレサルノ故ヲ以テ之ヲ中止セリ

右ノ外外務、陸海軍當局竝出先官憲ハ所在露國側ニ反覆交渉シ極力尼港方面ノ情況ヲ探查シ且居留民ノ安全ヲ確保スルノ途ヲ講スルニ努力シタルモ遂ニ目的ヲ達セス而シテ四月ニ入り沿海州地方ノ情況益々混亂ニ陥レリ

第四 尼港救援隊ノ派遣及尼港占領

我當局ハ諸情報ヲ綜合シ尼港ノ事態甚々重大ナルヲ知り更ニ確實ナル情報ヲ迅速ニ蒐集シ且同方面ノ解氷ヲ見ハ直ニ進發セシムル目的ヲ以テ先キニ待命セシメタル尼港派遣隊ヲ取敢ヘス亞港ニ派遣スルニ決シ該隊ハ軍艦三笠、見

島掩護ノ下ニ四月十九日小樽ヲ發シ二十二日亞港ニ上陸セリ

同地「パルチザン」ハ我軍上陸ト共ニ遠ク遁走シ其ノ他ハ白旗ヲ掲ケテ我ヲ迎フ派遣隊ハ該地方ノ治安ヲ維持シ且救恤施療ヲ行ヒテ露民ノ窮狀ヲ救ヒ該地方面極メテ平穩ナリ

派遣隊長多門大佐ハ四月二十三日亞港ニ於テ捕虜トセル極東「パルチザン」總指揮官ト稱スル「グバーノフ」ヲ介シ尼港過激派軍司令官「トリヤピーツイン」ニ對シ生存セル日本軍人及在住邦人ノ官氏名ヲ問合セタルニ二十四日「トリヤピーツイン」ヨリ全部ノ捕虜及降參セル住民ハ存命ニシテ俘虜ハ一般規定ニ據リ管理シアリ國際法ニヨリ姓名及數ハ追テ報道スヘキ旨ノ返電アリ然レトモ爾後數次ノ督促ヲナシタルモ回電ヲ得ルニ至ラス

爾來尼港方面ノ情況ヲ諜知シタル結果ニ依レハ同地附近過激派軍ノ兵力頗ル優勢ナルニ鑑ミ更ニ兵力ヲ増派スルノ必要ヲ認メ新ニ北部沿海州派遣隊(司令官津野少將)編成セラレ海軍亦第三艦隊(司令官野間口中將)主力及第三水雷戰隊(司令官桑島少將)ヲ派遣シ哈府ヨリ下航セル國分中佐ノ指揮スル歩兵二中队(石川大隊ノ半部)竝中村少將ノ指揮スル臨時海軍派遣隊ト共ニ黑龍

江方面及海面ヨリ相協同シテ尼港ニ向ヒ前進シ六月三日ヲ以テ同港ヲ占領ス
尼港過激派軍ハ我軍ノ前進ヲ察知スルヤ黑龍江ノ上下流水道ヲ閉塞シテ我行
動ヲ妨害シツツ一方豫メ撤退準備ヲナシタルカ如ク先ツ無慘ニモ我生存者ヲ
悉ク慘殺シ又強制的ニ人民ヲ尼港以外ニ撤退セシメタル後全市ニ放火シ之ヲ
灰燼ニ歸セシメ遁走セリ之ヨリ先我派遣隊ハ我生存者ノ救援ニ關シ種々考慮
ヲ廻ラシタルモ交渉スヘキ機關ナク已ムヲ得ス到著前海軍飛行機ニ依リ我意
ノ存スル所ヲ明ニシ救援ノ目的ヲ達成スルト共ニ生存者ノ災厄ヲ未然ニ防止
スルノ策ニ出テシモ遂ニ何等ノ效果ヲ見ル能ハサリキ如斯ニシテ領事官ヲ始
メ守備隊將卒三百三十餘名海軍將卒四十餘名居留民約三百五十名ハ悉ク難ニ
殉シ一名ノ生存者ヲモ救出シ得サリシハ眞ニ遺憾トスル所ナリ
尼港過激派軍ノ兇暴ナル獨リ邦人ヲ殺戮セルノミナラス同地及其ノ附近ニ於
テ毒刃ニ斃レタル露國人亦多數ナリ
派遣隊上陸後附近ノ山中ニ隱匿セル者及附近諸部落ニ避難セル露民ハ續々尼
港ニ歸來シ我軍ノ保護ヲ仰ケルモ一家離散ノ厄ニ遭ヒ住ムニ家ナク眞ニ悲慘
ヲ極メ居レリ

尼港三月事變之顛末

大正九年七月三日
海陸軍省

尼港三月事變之顛末

本事變前後ノ情況ハ當時日本側ノ通信杜絶シアリタルノミナラス關係者悉ク殉難シテ其ノ真相ヲ詳ニスルヲ得ス僅ニ我殉難者ノ日記、記録、居住民ノ言其ノ他ニ依リ斷片的ニ情況ノ一端ヲ窺知シ得タルニ過キササルヲ以テ其ノ正鵠ヲ期シ難キモ不取敢前述ノ資料ヲ基礎トシ經過ノ概要ヲ叙述スレハ左ノ如シ

大正七年西伯利派兵以來尼港ハ大ナル變動モナク經過シタルカ八、九年ノ交西伯利各地ノ過激派擡頭ヲ來タスニ及ヒ九年一月中旬以來尼港ニ於テモ過激派軍逐次同地ニ近迫シ同月下旬ニ至リテハ遂ニ「チヌイラフ」要塞ヲ占領スルニ至レリ

二月五日我海軍無線電信所及同所附近ノ陸軍守備隊ノ一部ハ過激派軍ノ砲撃ヲ受ケ電信室破壊セラレ通信不能ニ陥リシニ依リ七日同地ヲ撤シテ尼港守備

二

隊主力ニ合シ爾來海軍無線電信隊ハ専ラ領事館ノ直接護衛ニ任セリ

二月二十四日午前九時我守備隊長ハ過激派軍指揮官ノ通牒ニ接ス其ノ要旨ニ曰ク「今後徒ラニ犠牲ヲ拂ハンコトヲ避クル爲協商ヲ開始シタキ希望ナリ依テ二月二十四日午後六時迄ニ日本軍ノ使者ヲ過激派軍本部ニ差遣セラレタシ」ト依テ守備隊長ハ右提議竝ニ二月二十三日附對過激派軍態度ニ關スル師團長ノ訓電ニ基キ委員ヲ過激派軍ニ差遣シ相互協議ノ結果二月二十八日午後五時ヲ以テ協定成立ス

該協定事項ハ未タ其ノ正文ヲ發見セサルモ多數ノ避難民ヲ調査シテ得タル所ニ依レハ其ノ要旨概ネ左ノ如シ

- 一 日本軍及赤衛軍ヨリ各歩哨ヲ配置シ警戒ニ任シ尼港ノ安寧秩序ヲ圖ルコト
- 二 赤衛軍ハ裁判ナクシテ一般市民ニ對シ銃殺ヲ行ハサルコト
- 三 赤衛軍ハ一般市民及白衛軍ヲ捕縛シ又ハ掠奪ヲ行ハサルコト

二月二十九日過激派軍入市スルヤ右協定條件ヲ無視シ露國尼港守備隊將校及官吏富豪等五百餘名ヲ捕ヘテ獄ニ投シ所在掠奪ヲ行ヒ日ヲ經ルニ從ヒ其ノ兇暴益々甚シク投獄虐殺相踵キ支那人約一千、朝鮮人約五百ヲモ集メテ部隊ヲ編成シ以テ其ノ勢力ヲ張り市街ヲ横行スルニ至レリ

此ノ間過激派軍カ革命記念日ヲ期シ日本人鑿殺ノ企圖ヲ有ストノ風評專ラナリシカ三月十一日午後過激派軍參謀長「ナウーモフ」ハ守備隊本部ニ來リ日本軍全部ノ武裝解除ヲ要求シ若シ之ニ應セサルトキハ武力ニ訴フヘク其ノ回答ヲ十二日正午迄ニ爲スヘキ旨ヲ述ヘテ去レリ是ニ於テ我守備隊長石川少佐ハ最早戰鬪ノ避ク可ラサルヲ察シ石川、三宅兩海軍少佐及石田領事ト協議ノ結果荏苒時刻ヲ遷延スルトキハ彼我兵力ノ關係上甚シキ危險ニ陥リ我居留民ノ安全ヲモ保障シ得サルニ至ルヘキヲ慮リ自衛上斷然十二日午前二時ヲ期シテ敵ヲ攻撃スルニ決シ直ニ之ヲ我官民ニ傳フルト共ニ左ノ部署ヲ爲セリ

- 一 水上大尉ノ指揮スル第十二中隊(一小隊缺)機關銃二ハ過激派軍本部ヲ

三

攻撃ス

- 二 後藤大尉ノ指揮スル第十一中隊(一小隊缺)機關銃一八支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ敵ヲ掃蕩シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ攻撃ス
 - 三 石川少佐ハ自ラ六十名及機關銃一ヲ率キテ豫備隊トナリ水上隊ニ協力シテ敵本部附近ノ敵ヲ攻撃ス
 - 四 海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ノ敵砲ヲ奪取シ主力ヲ以テ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃ス
 - 五 第十二中隊ノ一小隊及傷病者ハ兵營ノ守備ニ任ス
- 十二日午前一時三十分諸隊ハ行動ヲ起シ水上隊及石川隊ハ敵本部及其ノ西方約七十米ノ市民俱樂部ノ敵ヲ包圍攻撃ス首領「トリヤピーツイン」ハ負傷シ幕僚「ニーナ」等ト共ニ纜ニ身ヲ以テ免レ我戰勢極メテ有利ニ發展セシカ「クンスト」商會ニ在リシ副統領「ラプタ」ハ我攻撃ノ衝ニ中ラサリシヲ以テ直ニ其ノ部下ヲ督勵シテ應戰ニカムルト共ニ各所ニ散在セル過激派軍ヲ糾合シ又

「バルチザン」第一聯隊長「アムール」モ部下兵力ヲ集結シテ我攻撃ヲ阻止シ殊ニ其ノ一部ハ我側背ニ迫リ形勢逐次不利トナル斯克シテ時ノ移ルニ從ヒ敵兵ハ市外ヨリ續々増加シ來リ家屋内ヨリ猛烈ナル射撃ヲ加ヘツツ逐次家ヨリ家ニ移リテ我ニ逼ルニ及ヒ我兵奮戰屢々壯烈勇敢ナル突撃ヲ敢行シタルモ周圍ノ家屋ハ盡ク敵ノ占領スル所トナリ暴露セル我兵ハ忽チ死傷續出シ午前二時三十分頃ニ至リ守備隊長石川少佐重傷ヲ負ヒテ戰死シ横錢副官、石川軍醫、窪田通譯並通信員岩井工兵上等兵等相次テ戰死シ爾後戰況益々不利ニ陥リ天明ト共ニ愈々苦戰惡闘ヲ續ケ將校以下其ノ大部ハ茲ニ壯烈ナル戰死ヲ遂ケタリ高内主計ハ負傷ニ屈セス兵卒僅ニ三名ヲ率キ日没ヲ待テ敵中ヲ突破シ午後七時三十分大隊本部ニ歸還ス

水上隊ハ石川隊ト共ニ力戰奮闘大ニ努メタルモ前述ノ如ク家屋ニ據レル敵ノ猛射ニ依リ死傷頻發シ遂ニ石川隊ト離隔セルノミナラス後藤隊トノ連絡ニ努メタルモ敵ノ抵抗益々甚シク目的ヲ遂行スル能ハス既ニシテ天明トナリ敵ノ

勢力愈々加ハルニ反シ我ハ已ニ三分ノ二ノ兵力ヲ失ヒ而モ友軍ノ情況全ク不明ナリシヲ以テ一家屋ヲ利用シテ之ニ據リ猛烈ナル敵ノ砲撃及小銃火ヲ浴ヒツツ奮戦健闘ヲ續ケテ日没ニ至リシカ此ノ時他方面ノ銃聲全ク熄ミ我ヲ包圍スル敵ノ銃聲竝爆發音ヲ聞クノミ是ニ於テ中隊長水上大尉ハ兵營ニ歸リテ後圖ヲ爲サント欲シ十三日拂曉殘兵二十餘名及機關銃一ヲ提ケ市街各所ノ家屋ヨリスル敵ノ妨害ヲ排除シツツ前進中水上大尉以下十數名ノ戰死者ヲ出スニ至リ河本中尉ハ殘兵十數名及機關銃一ヲ率キ敵ヲ突破シテ兵營ニ歸還ス

後藤大尉ハ支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ前進中主力方面ニ於テ盛ナル銃聲ノ起ルヲ聞キシカ間モナク敵ハ沿道家屋ヨリ俄然我ニ向ヒ射撃ヲ開始セシヲ以テ直ニ之ニ應戦シ茲ニ猛烈ナル市街戦ヲ惹起シ敵ヲ突破シテ奮進シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ占領シ中隊ノ主力ハ依然西方ニ前進ス然ルニ敵彈雨注シ加フルニ家屋内ヨリ敵ノ投下スル手榴彈ノ爲塚本中尉以下死傷相踵キ漸ク苦戦ノ情況トナル後藤大尉以下奮戦以テ主力方面ニ策應スルニ努メタルモ敵ハ其ノ兵

力ヲ増加シテ我ヲ包圍スルニ至リ天明ト共ニ形勢益々非ニシテ難戦苦闘其ノ極ニ達ス後藤大尉ハ部下ヲ激勵シ突撃ニ次クニ突撃ヲ以テシ遂ニ一條ノ血路ヲ開キテ市場棧橋北側附近ニ達セシモ後藤大尉以下將校特務曹長皆斃レ創ヲ裏ンテ戦フモノヲ併セ僅ニ三十名ニ足ラス而モ新ニ他方向ヨリ射彈連リニ同隊附近ニ飛來シ忽チ十數名ヲ殺傷スルニ及ヒ我兵奮進勇敢ナル突撃ヲ試ミタルモ前後ヨリ猛射ヲ受ケ遺憾ナカラ後藤隊ノ殘兵ハ悉ク壯烈ナル戦死ヲ遂ケタリ

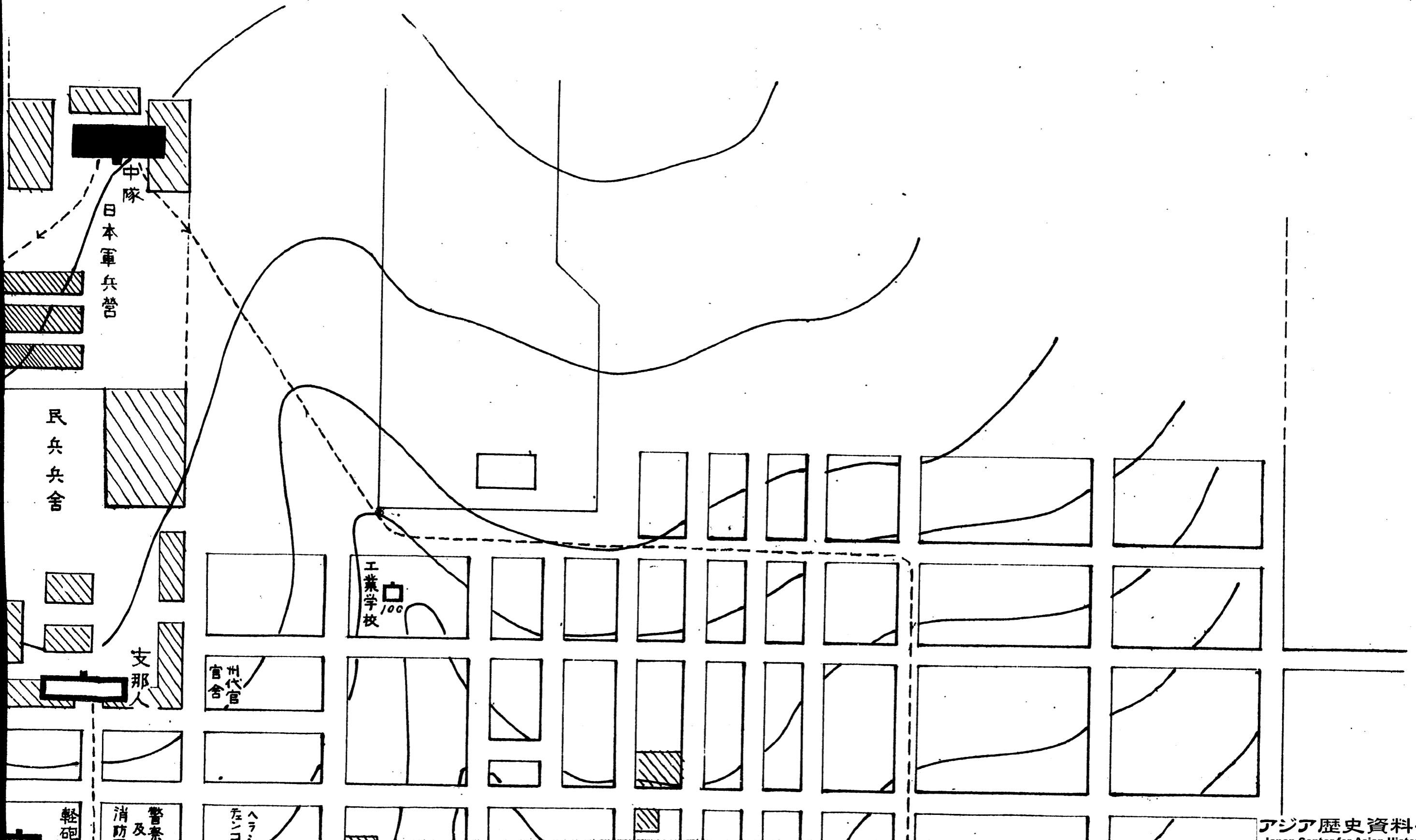
海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ニ在リシ敵砲二門ヲ襲撃シテ之ヲ奪ヒ其ノ樞要部ヲ脱シテ持チ歸リ主力ハ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃セシモ敵ノ抵抗頑強ナルノミナラス敵兵漸次増加シテ我ヲ包圍シ猛火ヲ注キ死傷續出苦戦ノ情況ニ陥リシヲ以テ退テ領事館ヲ守備セシカ敵兵ハ忽チ同館ヲ包圍シテ猛烈ニ攻撃シ來リ石川海軍少佐以下勇戦奮闘屢々敵ヲ撃退セシモ敵兵愈々増加シ殊ニ天明ト共ニ他方面ヨリノ猛射ヲ蒙ムルニ及ヒ我損害益々甚シク石川海軍少

メテ之ヲ虐殺シ其ノ財貨ヲ奪ヒ又既ニ投獄シアリシ資産及有識階級ノ露人約
 四百六十餘名ヲ慘殺シ其ノ家屋財貨ヲ擧テ悉ク之ヲ掠奪シ殘忍暴虐至ラサル
 ナク一面我殘存者ニ對シテハ頗ル粗惡ナル給養ヲナシ且苛酷ナル勞役ヲ課シ
 タルモノノ如シ而シテ我救援隊ノ漸次近接スルヲ知ルヤ五月二十四日夜半ヨ
 リ二十七日ノ間ニ於テ過激派軍ノ手ニ在リシ我殘存者全部ヲ慘殺セルモノノ
 如ク百二十二名ノ我同胞ハ救援隊ノ來著近キニアルヲ知リツツ無殘ニモ悉ク
 過激派軍ノ毒刃ニ斃レタリ

斯ノ如クニシテ彼過激派軍ハ入市以來少クモ五千人ヲ虐殺シ暴戾ノ極ヲ盡シ
 タル後尼港全市ヲ焦土ト化シ我軍ノ上陸ニ先チ逸早く「アムグン」上流方向ニ
 遁走セリ今ヤ尼港附近ノ露國住民ハ漸ク其ノ虐政ノ苦ヲ脱シ得タルヲ喜ヒ救
 ヲ我軍ニ求ムルモノ日ニ數百ヲ算スルノ情況ニアリ

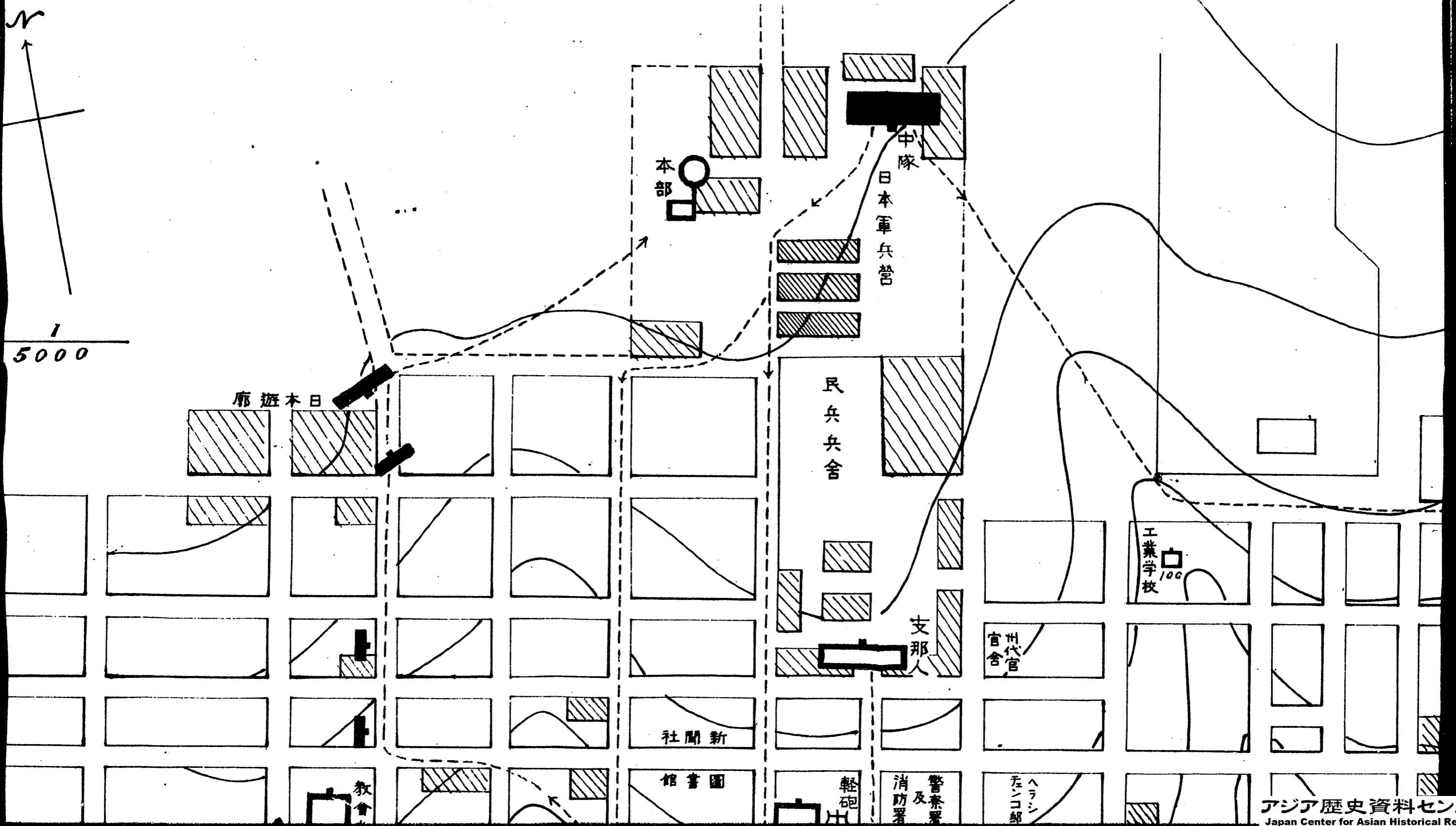
尼 港 守 備 隊

(三月二十日午前二時以)



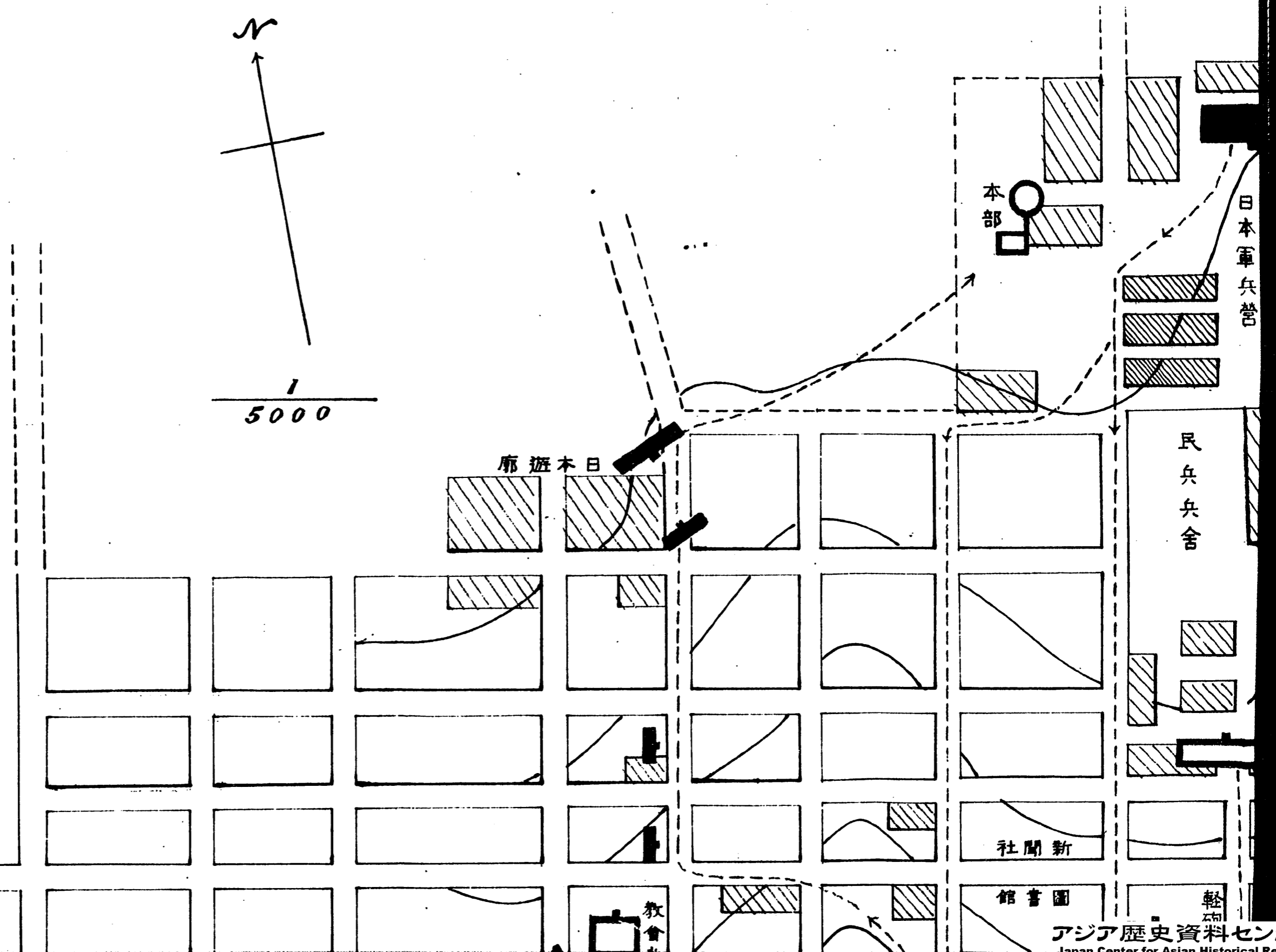
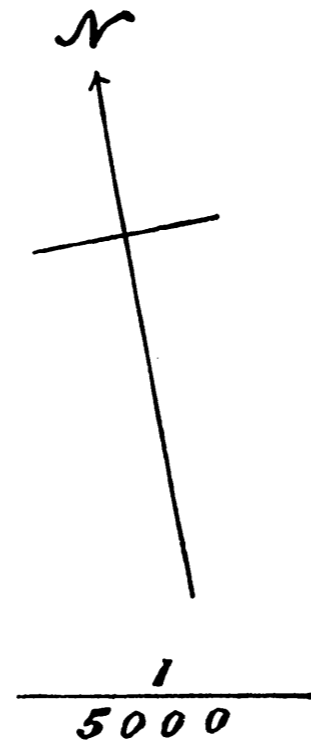
尼 港 守 備 隊 戰 闘 要 圖

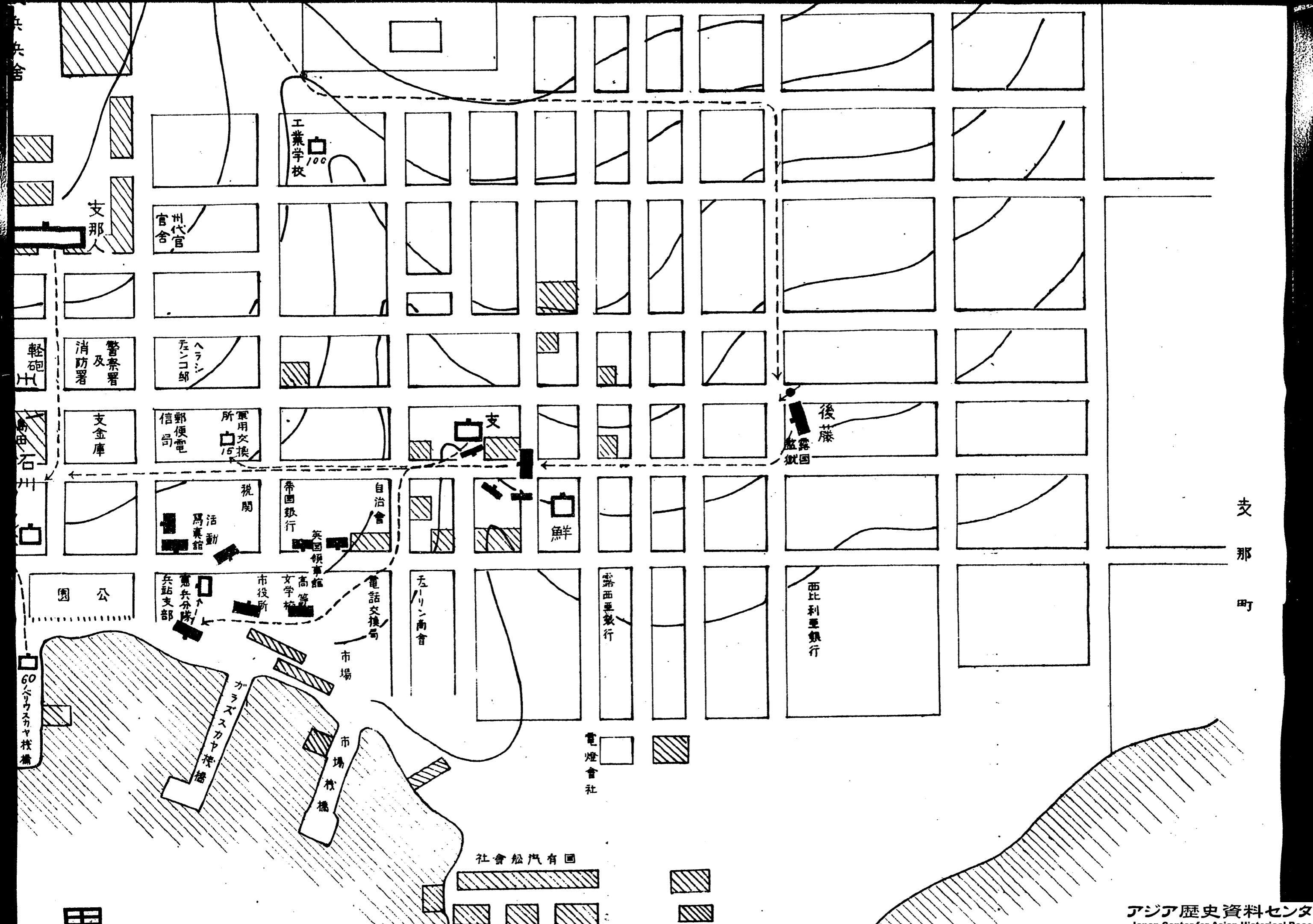
(三 月 十 二 日 午 前 二 時 以 后 於 此 圖 上)



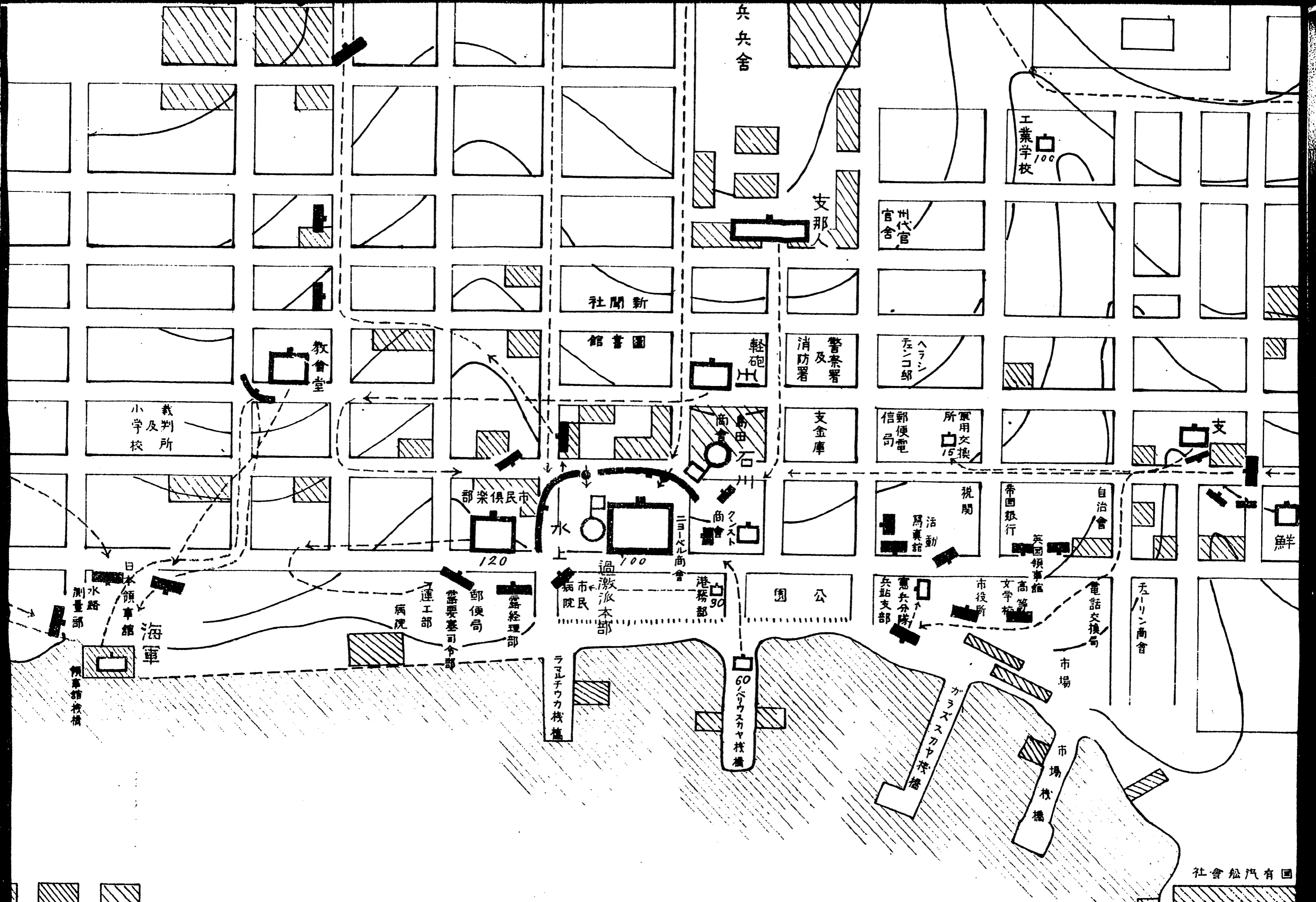
隊戰要圖

(二時以後ニ於ケル)





支那町



倉 日

江 龍 里

学実
校業

二門

砂金
熔解所

小裁
学判
校所

教會
堂

日本
領事館
海軍

測量部
預備校機

運工部
病院
露要塞司令部
郵便局
露經理部

部樂俱民市

水上

過激派本部
市民病院

港務部

60
メリスカヤ
棧橋

ラマルチウカ
棧橋

輕砲
臺

島田
商店

ニヨール
商店

新聞社

圖書館

兵舎

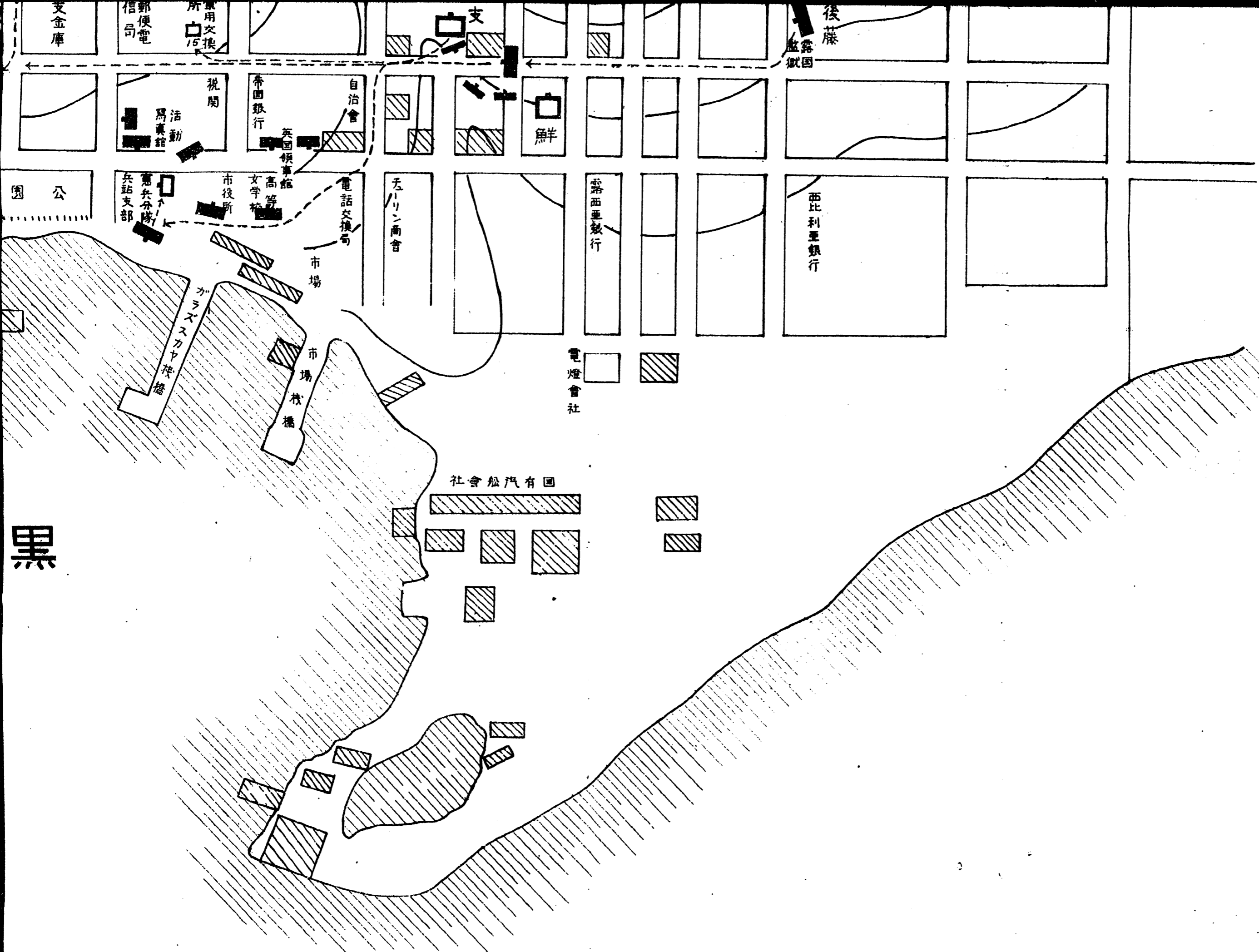
本圖
位置



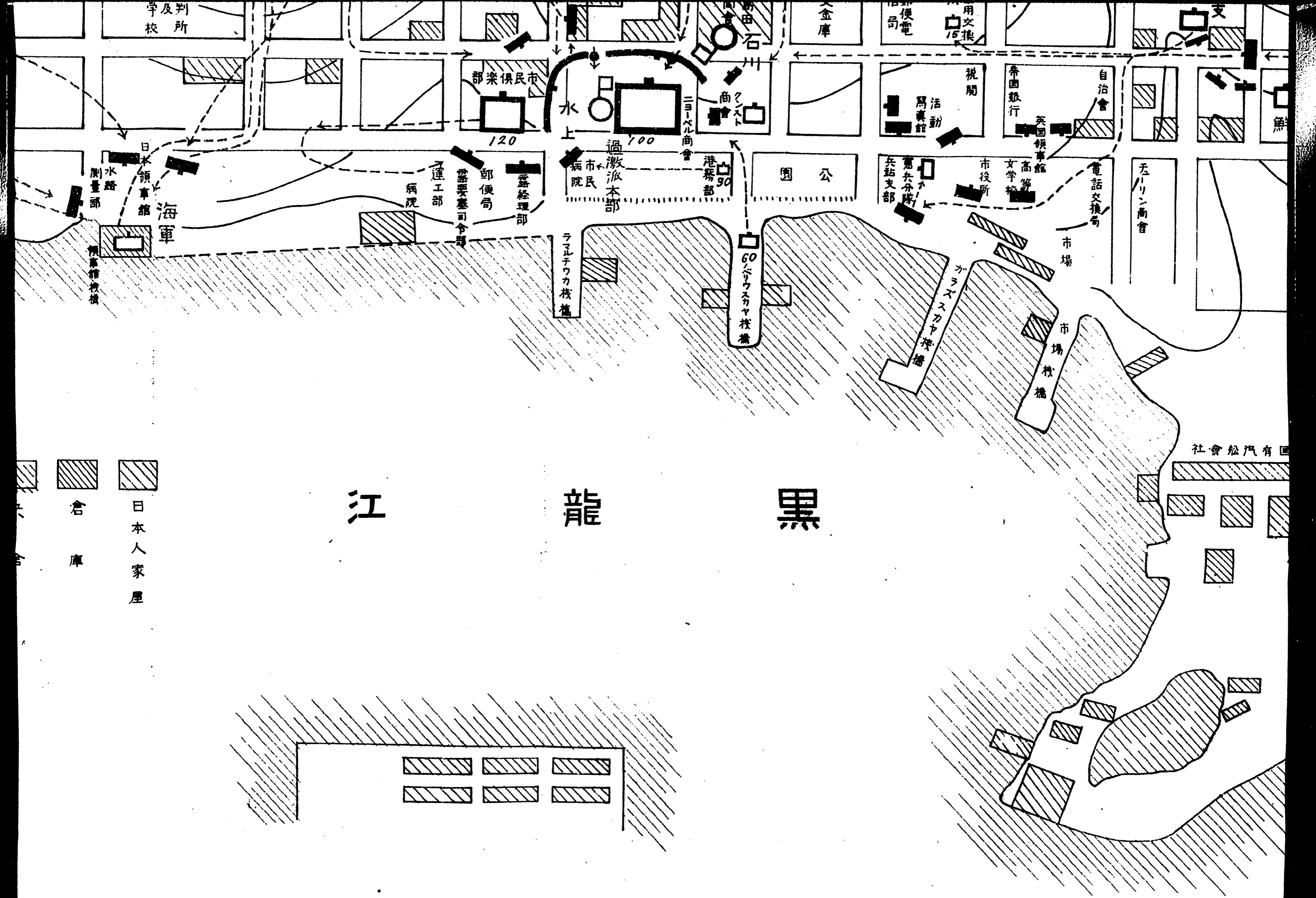
江

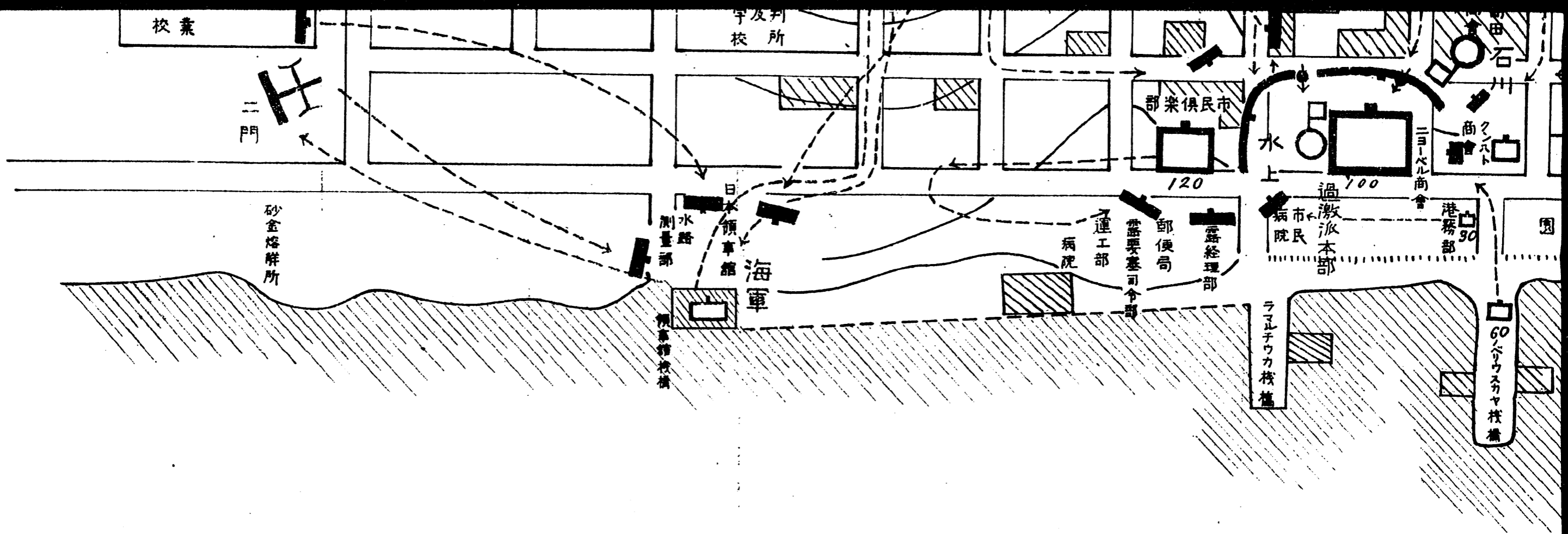
龍

支那町



黒





江 龍

本圖ハ情況ヲ推定シテ描キタルモノナル以テ軍隊ノ位置其他ハ必ズシモ正確ヲ保シ難シ

- 日本人家屋
- 倉庫
- 兵舎
- ハ日本軍ニシテ
- ハ大隊本部
- ハ本部
- 出ハ火砲ヲ示ス
- ハ機關銃ヲ示ス

